



福島県郡山市

郡山市朝日2丁目15-1
 担当課: 保健福祉部保健所地域保健課
 〒963-8024 精神・難病係
 ☎024-924-2163 FAX024-934-2960
<http://www.city.koriyama.lg.jp/>
 Eメール: tiikihoken@city.koriyama.lg.jp

本市のデータ

(1)面積 757.20km² (2019.10.1)

(2)人口 (人)

35国調	12国調	17国調	22国調	2019.10.1住基
102,636	334,824	338,834	338,712	332,028
65歳以上人口比率(22国調)				24.9%

(3)世帯数

35国調	12国調	17国調	22国調	2019.10.1住基
23,325	120,229	126,382	131,740	142,824

(4)沿革

大正13年(1924) 9月1日 市制施行
 (戸数7,163戸、人口39,003人、予算52万円)
 平成9年(1997) 中核市移行
 市保健所開設、人口33万人突破



(5)産業構造

区分	就業人口	就業人口	就業人口
	17国調	22国調	27国調
1次	7,505人 4.7%	5,199人 3.6%	4,552人 2.9%
2次	38,793人 24.3%	34,375人 23.8%	36,735人 23.5%
3次	109,942人 68.9%	99,647人 68.9%	102,817人 69.9%
分類不能	3,403人 2.1%	5,400人 3.7%	11,955人 7.7%
計	159,643人	144,621人	156,059人

本市の概要

福島県の中央に位置し、東北地方で仙台、いわきに次いで第3位の人口規模を誇ります。北には智恵子抄で有名な安達太良山、市の中心部を南から北へ阿武隈川が流れ、市域は広く、郡山駅の周辺の市街地は駅前郡山ビッグアイ展望台から望むことが出来ます。西には猪苗代湖が広がり、高速道路や新幹線、福島空港など、交通の利便性が良いことから「陸の港」と称され、人、モノ、情報が集まる中核市、経済都市として成長を続けています。

市西部の布引高原では、「郡山市布引高原風力発電所」が2007年2月に運転を開始し、現在も国内最大級の規模を誇っています。

郡山市では戦後困窮の時代に、音楽による戦災復興が市民の心の拠り所となり、現在では、2008年に音楽都市を宣言し、「東北のウィーン」と呼ばれるほど音楽活動が盛んな街として知られるようになってきました。音楽の他にも全国有数の食用鯉の生産地であり、郡山産米「あさか舞」や「うねめ牛」、地元の野菜を使った「グリーンカレー」などのおいしい食べ物や張り子人形など伝統工芸品もあり、イメージキャラクター「かくとくん」が郡山市のシティーセールスを展開しています。



支援に向けての取り組み状況

<対策の方針・目標>

郡山市の自殺の現状として、40～50歳代男性の有職者、続いて60歳代以上の無職者の男女、3番目に20～30歳代男性の有職者の自殺が多い状況にあり、働き盛りの年代の男性の自殺者が多い。また、疾病による死亡を除いた死因順位を累計で見ると、広い年代層で自殺が1位を占める状況にある。東日本大震災や原子力発電所の事故の影響も未だなくなつたとは言えず、自殺に傾く要因も複雑化していると考えられる。郡山市では2018年2月にWHOが推奨するセーフコミュニティの認証を受け、現在も自殺予防を含めた活動を継続しており、2019年7月には、国際目標であるSDGsの「SDGs未来都市」に選定され、今後も誰一人取り残さない社会の実現のため自殺予防・対策に取り組む。

<具体的な取組み>

1 対面並びに電話相談支援事業の強化(専門相談体制の強化)

来所相談	精神科医による相談(月1~2回:予約制)	H29 33件	H30 22件
	臨床心理士による相談(月2~3回:予約制)	H29 42件	H30 39件
電話相談	精神保健福祉士(祝日除く水曜日:9時~16時)	H29 196件	H30 236件

2 自殺予防週間、自殺対策強化月間における啓発活動 ※9月・3月

- ・パネル展示の実施 ショッピングモールや市関係機関など、年4ヶ所で開催
心の健康づくり、市の自殺の実態、自殺予防、自殺に関連する精神疾患、各相談窓口
- ・関係機関に関するパネル等の掲示物の展示、パンフレット・リーフレットの配置・配布

・キャンペーンの実施(民間団体等との協働で街頭活動) 9月に実施

- 市の自殺の実態・周囲の気づきについて周知啓発を目的とした
チラシを作成、啓発品と一緒に配布

<キャンペーンの様子>

- ・行政機関窓口でのPRの実施。



3 市民こころの健康講座の開催

- ・H29 「こころ晴れ晴れ運動セラピー」 参加者 38人
- ・H30 「人の回復にメ切はありません」 参加者 62人

4 ゲートキーパー養成研修の開催

- ・H29、30とも5回実施 参加者 H29:212人、H30:286人
- 他、フォローアップ研修を年1回実施 参加者 H29:81人、H30:61人
- * 対象:小中学校の養護教諭等、市職員、美容組合、理容組合、民生委員、一般市民等

5 自殺予防講演会の開催

- ・H29 5回 参加者311人
対象:小中学校教員、養護教諭等、医療・福祉・救急・保健関係者等
テーマ:「自殺予防教育の実際」「自殺予防力を高める」「LGBTへの理解を深める」
「発達障害の理解と支援」、「自殺予防のために医療機関ができること」
- ・H30 4回 参加者261人
対象:市民、教員等、医療・福祉・救急・保健関係者等
テーマ:「自殺未遂者の再企図を防ぐために」「LGBTの子どもの支援」
「こころと体のストレスケア(マインドフルネス)」「うつ病を知ること」



6 各家族教室による家族支援

うつ病家族教室	1コース4回で年1回の実施
統合失調症家族教室	1コース4回で年1回の実施
ひきこもり等家族教室	1コース4回で年1回の実施
アルコール家族教室	1コース10回で年1回の実施

7 普及啓発事業・その他

- ・相談窓口等の周知 (A4版リーフレット、カード型リーフレットの配置・配布)
カード型リーフレットは、R1.10までで1600箇所以上の店舗、関係団体の協力を得て配布。
理容店、美容院、薬局、郵便局、金融機関、コンビニエンスストア、
病院・医院・歯科医院、小中学校、高等学校、市関係機関等
- ・新成人(約3500人)に心の健康づくりに関するパンフレットを配布
- ・セーフコミュニティ活動の一環として、自殺対策を検討。多様な分野の委員からなる、
自殺予防対策委員会において検討した内容を、事業に反映、活かす取組みをしている。
- ・SDGs未来都市計画として、こおりやま広域圏の近隣市町村と連携。自殺予防に関連した
研修・講演会を広域圏にも周知し、参加を募る等行っている。